

論文内容の要旨

報告番号		氏名	森田 修蔵
<p>Dexamethasone added to levobupivacaine prolongs the duration of interscalene brachial plexus block and decreases rebound pain after arthroscopic rotator cuff repair.</p> <p>鏡視下腱板修復術の斜角筋間腕神経叢ブロックにおいて、レボブピバカインにデキサメサゾンを加えると鎮痛時間が延長するのみならず、術後リバウンドペインが減少する。</p>			

論文内容の要旨

【背景・目的】

近年、斜角筋間腕神経叢ブロックの麻酔薬にステロイドを加えることで鎮痛持続時間が延長するとの報告が散見される。しかし、ブロックの効果消失後に生じる疼痛の増強(リバウンドペイン)に対するステロイドの効果を論じた研究はない。本研究の目的は、鏡視下腱板修復術において、斜角筋間神経ブロックの麻酔薬へのステロイド追加が、術後疼痛にどのような影響を及ぼすかを検討することである。

【方法】

この多施設、単純盲検、ランダム化比較試験では、鏡視下腱板修復術を受ける54例(男性33例、女性21例)を無作為にL群(0.25%レボブピバカイン20ccによる斜角筋間腕神経叢ブロック)21例とLD群(0.25%レボブピバカイン20ccおよび3.3mgデキサメサゾンによる斜角筋間腕神経叢ブロック)33例に振り分けた。主要転帰はブロック効果消失後のVAS値、二次転帰は鎮痛持続時間、初回追加鎮痛剤使用までの時間、追加鎮痛剤の使用回数、神経ブロックによる合併症とした。

【結果】

術当日および術後1日目のVAS値はLD群で有意に低かった($P=0.005, 0.035$)。これはLD群においてリバウンドペインが軽減されていることを示唆していた。術後2日目以降のVAS値は両群間で有意差を認めなかった(術後2日目 $P=0.43$ 、術後3日目 $P=0.19$)。鎮痛持続時間はLD群の方が有意に長かった($P<0.001$)。初回追加鎮痛剤使用までの時間もLD群で有意に長かった($P<0.001$)。追加鎮痛剤使用回数はLD群で有意に少なかった($P<0.001$)。合併症は認めなかった。

【結論】

鏡視下腱板修復術において、レボブピバカインにデキサメサゾンを加えると斜角筋間腕神経叢ブロックの鎮痛時間が延長するのみならず、ブロック効果消失後のリバウンドペインが軽減する。